



熊本県民医連では、4月1日に24名（芳和会21名、ファルマ3名）の新入職員を迎えました。入職式終了後から4月3日まで、前期新入職員研修を行いました。3日間の研修では、社会人・医療人としての心構えや就業規則、接遇、民医連綱領、水俣病、共同組織についての講義、事業所見学（水俣、八代、天草



以外）を行い民医連職員としての基礎的なことを学び、2日目には県連ジャンボリーとの交流会。仲間や先輩職員との親睦も深めることができました。新入職員の皆さんが、一日でも早く仕事に慣れるようあたたい指導をお願いいたします。教育学習委員会 松尾ひろみ

2019年度入職式・新入職員研修を開催しました

県連ニュース

発行者：木原 望

TEL：096-387-2826

FAX：096-381-5442

熊本地震発生から3年

被災者に寄りそった復興をめざす メモリアル集会に参加しました

4月14日（日）熊本地震発生から3年被災者に寄りそった復興をめざすメモリアル集会が益城町保健福祉センターはびねすで開催されました（主催：いのち、平和ネット被災者支援共同センター・NPOくまもと地域自治体研究所）。参加者は全体で55名（うち民医連10名）でした。第1部は高林秀明氏（熊本学園大学教授）から「被災者の生活再建の現状と復興のあり方」、第2部は中島熙八郎氏（熊本県立大学名誉教授）から「震災復興における『まちづくり』とは」と題して報告をいただきました。熊本地震から3年経った今、生活再建の階層間格差が広がっていること、行政は問題を抱えている人は一人も居ないとしている仮設団地でも実際調査を行うと多くの方が困難を抱えていることを学びました。他にもみなし仮設のコミュニティからの分離（隔離）や益城町の区画整理事業など多岐にわたる内容を知ることが出来ました。震災から3年、建物など見た目の復興は進んでいますが、まだまだ被災者の生活再建の課題は山積していますし、格差は広がっています。自分たちに何が出来るか考え、これからも被災者支援に取り組む必要があると感じます。 県連事務局 井長秀典

